

来年度から底層DOの環境基準化へ

環境省



The Knights

環境省は来年度(2010年度)から、水生生物の生育に必要な底層DO(溶存酸素)の環境基準化に向けた水質環境評価事業を新たに実施します。2年計画で底層DOなどの水質連続監視や魚類生息状況の把握評価を行うもので、その成果を次期水質総量規制や湖沼水質保全特別措置法の見直しに反映させる考えです。

生活環境項目の水質環境基準は設定から35年以上が経過していますが、その間、水環境の状況が変化していて、現在の環境基準項目の達成状況だけでは水環境の現状が国民に分かりにくく、水環境保全施策の推進などにつながらないとの指摘があります。このため、昨年度に実施した水質環境基準生活環境項目検討調査で基準改訂の方向性がとりまとめられました。その中で、湖沼、閉鎖性海域などにおいては底層において水生生物の生息にとって基本であるDOの低下により水生生物が生息不可能となる状況が見られることから、今後、特に底層DOについては、改善に係る指標の開発や時間変動の影響等について検討し、新たな基準項目として設定する必要性があるとされています。

また、2011年度に見直しが予定されている湖沼法における施策や2014年度を目標年次とする第7次総量規制で、環境基準としての底層DOを施策の目標とするためには、遅くとも2011年度中に底層DOに係る具体的な基準値の設定と類型指定のためのデータ収集を終了する必要があり、一方で地球温暖化に伴い日本の湖沼等での底層DOの悪化も懸念されていて、継続的な状況の把握や、湖沼を中心とした、魚類生息状況と水質の関係を把握する必要があるとされています。

このため、魚介類の斃死や湖底での貧酸素水塊の発生が報告されている湖沼や海域を対象として、底層DO、pH、水温等の長期間連続観測(日間変動や季節変動の把握)及び関連項目の定期観測並びに湖沼での魚類の生息状況を把握、整理し、魚類生息状況との水質との関係を踏まえた水質環境の評価を行う考えです。

当社では、COD、窒素、りん等の総量規制項目の他、生活環境項目を中心とした水質分析について長年の実績があり、多検体・短納期分析を行っております。ご不明な点がございましたらお気軽にお問い合わせください。

資料 2009年9月16日付 環境新聞
環境省ホームページ

水質分析箇所 小林優香